

各位

日本農産工業株式会社

2014年1～3月期の畜産配合飼料価格について

畜産配合飼料価格改定額

弊社は2014年1～3月期の畜産配合飼料価格につきまして以下の飼料原料情勢等に基づき、2013年10～12月期に比較して全国全畜種総平均トン当たり約500円値下げすることを決定致しました。なお、改定額は地域別・畜種用途別・銘柄別に異なります。

飼料原料・外国為替情勢について

1. 主原料（飼料穀物）

シカゴ定期とうもろこし相場は、今年の米国産とうもろこしの豊作が確定し、昨年から続いていた需給逼迫基調が解消される見通しになったことから、10月以降の相場は4ドル台後半（ブッシュェル当たり）で取引されていた7～9月よりも若干下落、4ドル台前半で取引されています。これを受けて米国産とうもろこしの需要は回復傾向にあり、直近の相場は下げ止まっています。

2. 副原料（植物蛋白原料）

シカゴ定期大豆粕相場は10月に米国産大豆の作況回復観測を材料に下落しました。しかし、11月以降、インド産大豆粕の減産や世界的な大豆粕需要の増加によって需給逼迫感が強まり、相場は再び上昇に転じています。1～3月期間渡し大豆粕価格は10～12月期間と比べ、若干の値下がりとなる見込みです。

3. 海上運賃

米国ガルフ／日本間パナマックス級本船の運賃は、おおむねトン当たり50ドル台後半での取引となっています。中国向けを中心とする穀物輸出需要、さらには鉄鉱石輸送需要等が好調で、大型ばら積み船の運賃相場は上昇傾向となっています。

4. 外国為替

直近のドル／円相場は、7ヶ月ぶりのドル高円安水準となる、1ドル＝101円～103円の範囲で取引されています。7～9月の間がおおむね1ドル＝96円～101円の範囲だったのに対し、10月以降はおおむね1ドル＝97円～103円の範囲の取引となっており、前四半期と比較してドル高円安傾向となっています。